

第3回 酒田港カーボンニュートラルポート(CNP)検討会議事概要

日時：令和3年12月24日(金) 10:00~12:30

場所：酒田勤労者福祉センター 3階 多目的ホール

【議事概要】

- 事務局から「酒田港 CNP 形成方針（原案）」を示し、検討会として了承。
- 検討会の構成員に株式会社日本政策投資銀行を追加。
- 九州大学の秋葉教授より、「脱炭素を目指した水素エネルギーの地域での展開」と題して、脱炭素を目指すうえで必要となる水素エネルギーの特徴や役割、国の水素活用に関する事業などについてご講演いただいた。
- 外部有識者の川崎重工業株式会社、伊藤忠商事株式会社、サステナブルエネルギー開発株式会社からカーボンニュートラルに関する先行事例について説明。
- 構成員の花王株式会社よりカーボンニュートラルに関する取組について説明。
- 次回は令和4年2月8日(火)15:00から酒田市民会館希望ホールで開催。

【構成員のコメント】

- 次年度以降もこの酒田港 CNP 検討会で議論を進めると言うことで良いか。はっきりしておかないと、形成方針は作ったが、実際に動くときに進まないことが懸念される。行政が主体となっていくことを明確にする必要がある。
⇒ (事務局より回答)
来年度の検討体制は未確定だが、地元企業の皆様をはじめ関係者が集まり、検討する場は必要と考えている。構成員の皆様、外部有識者の知見を聞かせていただき今後の酒田港、日本のカーボンニュートラルについて、将来への期待も芽生えてきた。これから5年、10年経っていくとまた、新しい技術が出てくる可能性があり、議論を続けていきたい。
- 水素や燃料アンモニアの需要ポテンシャルの試算について、酒田における水素ポテンシャルは約16万トンだが国のロードマップでは、2030年に30万トンのサプライチェーンの構築という話がある。現在の経済活動規模を踏まえて試算すると、16万トンというポテンシャルがあるということだが、この数字の意味を具体的にする必要があるのでないか。
⇒ (事務局より回答)

仰るとおり、この数字をすべて転換するというのは現実的ではないが酒田港における現在の生産活動から排出される CO2 排出量の目安、更に水素などの新たなエネルギーに換算した目安を分かりやすく数字であげていると認識いただきたい。

- 企業がどのように水素やアンモニアを使いたいかという意見が来年度以降も出てくれば、より実態に沿った話が出来るという感想を持っている。地域と企業のことを平行して考えると良い着地点が見つかると思う。
- 検討方針が出てから山形県が後追いするのではなく、県として方針を同時並行、先取りして検討することをお願いしたい。